

I — A — 19

肺癌化療時のNK活性に十全大補湯の及ぼす影響

長崎県立島原温泉病院内科

○藤野 了，藤原千鶴，梶山浩史，徳永秀士，田中俊郎，糸山貴浩，岡本純忠，蓮本正詞

〔目的〕肺癌の化学療法に使用される抗癌剤でNK活性が増強されることが知られている。一方，VDSはNK活性を低下させるといわれている。また，NK細胞のin vivo抗腫瘍能における意義が注目されている。以上のことにより，和漢薬でNK活性を増強しえないか検討をした。

〔方法〕56歳から75歳までの肺癌患者（組織型はすべて腺癌）4人（男3人 女1人）に，十全大補湯あるいはプラセボを投与し，投与直前・投与中・投与直後にNK活性を測定した。

〔結果〕プラセボ投与の2人の投与直前のNK活性は，9.4と11.6であった。十全大補湯投与の2人の投与直前のNK活性は，6.6と10.2であった。プラセボの1人はStageⅣであり，十全大補湯の1人も，StageⅣである。投与中のNK活性は，プラセボ投与，20.0と2.4であり，十全大補湯投与，11.0と3.3であった。投与直後のNK活性は，プラセボ投与，6.4 十全大補湯投与3.9である。

〔考察〕現在，肺癌の化学療法の中心薬となっているCDDPはNK活性に影響を及ぼさないといわれている。CDDPにOK-432を併用することで，NK活性が増強されたと馬場¹⁾等は報告している。十全大補湯には免疫賦活作用があることを以前，演者は発表した。OK-432の替りとして 十全大補湯を用いることで，NK活性の変化が観察されたことで，今後の検討に値するものと考えられる。十全大補湯には，人参・黄耆という補気剤が配合されている。気を補う—これを西洋医学的に考えると，免疫賦活と言い換えることが可能だと思われる。免疫能の判断として，今回同時に，PHA・CONAを測定しているがプラセボと十全大補湯の両群間で若干の差が存在した。今後，更に，症例を重ね，検討をしていきたいと考える。

〔結論〕十全大補湯の使用により，今後，NK活性の増強を期待できる。

文 献

- 1) 馬場誠，渋谷昌彦，飯塚和弘，仁井谷久暢 Cisplatinum(CDDP) およびCDDPを含む併用療法の末梢リンパ球Natural Killer(NK)活性に及ぼす影響，癌と化学療法 16(9) 3299-3302, 1989